兼愷著】のなかには協和地区にまつわる話があります。

例えば人買い・鱶九郎にさらわれた娘たちを助けた江ノ島弁天様の話、脇登集落と小浜集落の間にある聖崎の沖で夜に三味線やお囃子が聞こえるという不思議な話、脇田の大富豪・オーベ酒屋の話、中俣川の岩屋観音のかくされた財宝の話、海潟の音八という男と猫の話など、面白い話がふんだんに残っているのです。

江ノ島弁財天の看板

これらの協和の伝説や物語をもっと大人や子どもたちが知り後世に伝えていく伝承活動や地域での親子読書活動等に活用する取り組みも大切です。

9．協和の今後

カンパチ祭り

海潟地区と中俣地区は大きく言えば、それぞれ漁業、農業を中心にして、両地区民がお互いに切磋琢磨しながら発展してきた地域です。現在、降灰による農業不振や長引く魚価の低迷など、苦境に立たされている一方で、平成21年に始まった海潟地区のカンパチ祭は回を重ねるごとににぎわいを見せており、カンパチ祭を核として協和地区の振興を目指す取り組みも模索されています。

協和地区の振興に向けては、旧なぎさ荘跡地の整備は避けて通れない課題として残っていますが、海潟温泉を軸に往年の海潟地区のにぎわいを再生させようと、「海潟温泉再生会」も発足し、温泉を活用した観光商品や物産商品の加工・販売、また温泉ソムリエの認定等に挑戦しています。

中でもきつい灰とりを競技化した「スポ灰」はまさに逆境の時こその発想の転換として、桜島降灰のマイナスイメージの払拭につながる要素を持っています。「海潟温泉再生会」の今後の活動に期待が寄せられています。

スポ灰

協和地区は農林水産業、観光、温泉、歴史、文化など地域資源が豊富で、且つバラエティーに富んでいることに自信と誇りを持って、私たちの知恵と力をあわせて「協力和合」の「新しい協和」を作って行かねばなりません。